

平成20年度学校評価について

北海道伊達高等学校長

今年度の学校評価について、次のとおり公表いたします。また、本校のホームページにおいても掲載しております。

1 本年度の重点目標

- (1) 個性の伸長と進路実現を目指し、自ら学ぶ意欲や態度の育成に努める。
- (2) 思いやりの心や基本的な生活習慣の定着を図り、自ら律する心の育成に努める。
- (3) 生命を尊ぶ態度や健康・安全意識を高め、たくましい心身の育成に努める。

2 学校経営方針

- －保護者・地域の願いと信頼に応える学校づくり－
- (1) 生徒一人ひとりの可能性を伸ばし、感動を体験できる教育活動の推進
 - (2) 分掌間の連携及び経営参画意識の高揚による組織の活性化
 - (3) 学校課題を踏まえ、教育実践に結びつく組織的計画的な研修の推進
 - (4) 地域の教育力の積極的活用と双方方向に開かれた教育活動の推進

3 自己評価結果及び学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

- (1) 自己評価 本校職員が、学校経営や教育活動等について行った評価
- (2) 学校関係者評価 本校の学校評議員（5名）が、自己評価について評価や意見等を述べたもの
- (3) 評価基準と評価
A（大変よい）
B（まあまあよい）
C（あまりできていない）
D（できていない）

| | 評価項目 | 自己評価 | | 学校関係者評価 | 改善方策 |
|------|-----------------------------------|---|----|---------|--|
| | | 成果・課題 | 評価 | | |
| 学校経営 | 個性の伸長と進路実現を目指した教育活動の推進に努めているか | 地域や関係機関等の協力、教職員の共通理解のもとに、生徒一人ひとりの可能性を伸ばすよう努めた。また、外部講師を利用した進路指導など、新しい試みを積極的に実施し成果をあげることができた。 | B | B | <ul style="list-style-type: none"> ・教育活動の向上や成果につながるような地域との連携の在り方を検討する。 ・次年度に課題を積み残すことのないようなシステムづくりを行う。 |
| | 分掌間の連携及び経営参画意識の高揚による組織の活性化を図っているか | より機能的・機動的な学校運営を目指して、分掌間の連携や反省会議、職員評価等を十分に活用できた。このため、職員から委員会の再編が提案されるなど、職員の参画意識が高まっている。 | B | B | |
| | 学校課題解決のための研修・研鑽（前後期反省会等）を行っているか | 学校課題解決のために年2回の反省会議や教科担任会議、特別委員会、また生徒指導に関する校内研修会等を実施し、積極的に解決策について検討することができた。 | B | B | |

| | | | | | |
|------|--------------------------------------|---|---|---|---|
| | 保護者や地域の理解・協力のもと、開かれた教育活動に努めているか | PTA 活動やホームページ（9回更新）、またボランティア活動で地域の協力を得ながら一定の成果を上げることが出来た。 | B | B | ・「学校だより」を地域で回覧するなど、情報発信の方策を検討する。 |
| 学習活動 | 生徒・保護者の期待や地域の状況にあった教育課程の編成や実践を行っているか | 生徒の進学状況等を考慮して、選択幅の大きい教育課程編成に改善した。また、運用上の問題点の解決を図り、本校生徒に必要な教育課程の編成・実践ができた。 | B | B | <ul style="list-style-type: none"> ・地区別懇談会において、従来の進路指導の説明に加え、学習や生徒指導に関する内容の説明等も必要に応じて加える。 ・基礎学力の定着のための方策が成果をあげつつあることから、今後は成績上位者の学力をさらに伸ばさせるための方策を工夫する。 ・学習習慣の確立や意欲的・自主的な学習態度を育成するため、朝学習や課題学習等の方策を工夫する。 |
| | 基礎・基本を重視し、生徒の学力の向上に努めているか | 習熟度別学習（1・2学年：数学）や希望選択学習（1学年：英語）、少人数指導に加え、テスト前からの勉強会・朝自習、進学講習等を通して、生徒の個に応じた指導を実施し、成果を上げることができた。今後とも基礎学力の定着を目指すとともに、成績上位者の学力を伸ばさせるため、学習意欲を向上させる必要がある。 | B | B | |
| | 学習環境の整備（ベル席等）と自主的・意欲的な学習態度の育成を図っているか | 学習規律点検週間等を通して、生徒の学習に対する姿勢や意欲の向上に努めることができた。また、シラバス（授業内容の概要）の作成や活用も行った。今後は、意欲的な学習態度の育成にも力を注ぐ必要がある。 | B | B | |
| | 授業改善（公開授業・教育課程委員会・教科担任会議）に努めているか | 1学年で実施した公開授業・研修会は教員のスキル（技術）を高める上で大変有意義であった。教科担任会議も含め、授業改善に大いに役に立った。 | B | B | |
| 生徒指導 | 生徒の規範意識の育成を図っているか | 生徒の規範意識を育てる指導は学年集会、ホームルーム指導、部活動等、あらゆる場面で実施した。今後は、規範意識が乏しい生徒などに対して、家庭環境等を考慮しながら対応することが必要である。 | B | B | <ul style="list-style-type: none"> ・規範意識が乏しい生徒に対して、家庭環境等を考慮しながら対応するとともに、保護者との連携の取り方等を検討する。 ・専門家によるカウンセリングの実施や特別支援教育に対応するため、教員が専門的な知識・技術を身に付けられるような校内研修会を実施する。 ・高校生活に目的意識や充実感を持たせるため、部活動の加入を促進させる方策を検討する。 |
| | 教育相談や面接などを通して、生徒理解に努めているか | 年2回実施している個人面談は、効果を上げている。今後は、心の耐性が不足している生徒に対して、カウンセリングの実施やクラス集団を活用した指導など、工夫する必要がある。 | B | B | |
| | 教職員の共通理解に基づく生徒指導を行っているか | 多様化する生徒に対応するため、校内研修会を実施した。これは職員の同一歩調での指導には不可欠なものとなった。また特別支援が必要な生徒に対応するための研修も今後ますます必要となる。 | B | B | |

| | | | | | |
|---------|---|---|---|---|--|
| | 生徒会活動を活性化し、生徒の自発性・自主性の育成に努めているか | 地域との協力関係も築かれ、学校祭や植樹等の生徒会活動が活性化されつつある。また、厚生委員会等を活躍させるなど、生徒の自治意識も育成され、成果を上げつつある。今後は、部活動の加入率を高め、高校生活に目的意識や充実感を持たせることが必要である。 | B | B | <ul style="list-style-type: none"> 生徒の活動を学校ホームページや機関誌等を通して積極的に発信し、地域の方に本校の教育活動について関心を持ってもらうよう工夫する。 |
| 進路指導 | 進路決定を視野に入れた生徒の意識の高揚と準備学習の充実を図っているか | 進路シラバス（指導の概要）や「進路のしおり」を利用した早期意識付けや外部講師を招いての進路別オリエンテーション、インターンシップ（就業体験）、就職内定者マナー講習会、3年生全員面接、小論文指導等を行い、早期指導や就職内定後の指導等を積極的に実施した。 | B | B | <ul style="list-style-type: none"> 総合的な学習の時間やLHRを計画的に活用して、生徒の多様な進路希望に対応した指導の体系づくりを行うとともに、キャリア教育の推進を図る。 より一層、保護者に進路指導を理解してもらう機会の持ち方などを検討する。 進路決定に向け、保護者の理解や協力を得るための方策を考える。 就職率の向上とともに、就職後の定着も図る指導を工夫する。 |
| | 各学年に応じた進路計画を立て、生徒個々に対応した進路指導に努めているか | 全学年において、ほぼ進路計画通り実施できた。今後は、総合的な学習の時間やLHRを計画的に活用して、生徒の多様な進路希望に対応した指導の体系づくりをさらに進める。 | B | B | |
| | 進路決定に向けて、生徒や保護者の理解や協力を得られるように情報を提供しているか | PTA 地区別懇談会や進路説明会、3年生の三者面談などで保護者との意思の疎通に積極的に努めた。今後は、保護者に本校の進路指導について理解してもらう機会の持ち方などを検討する。 | B | B | |
| 健康・安全指導 | 生命を尊重する態度の育成に努めているか | 関係機関と連携・協力し、健康・安全教育の指導に努めた。 | B | B | <ul style="list-style-type: none"> 教科・分掌・学年等の連携により、系統的に指導計画を立案・実施する。 生徒が健康に学校生活を過ごすことができるよう、生徒自らも環境整備を推進するような指導を工夫する。 |
| | 生徒が健康で安全な生活を送るための自己管理の啓蒙や学校環境の整備に努めているか | 保健だより等を利用し、SHRやLHRの時間に、健康的な生活を送るための指導ができた。今後とも、生徒が健康的に学校生活を過ごすことができる環境整備に努める。 | B | B | |
| | 関係機関との連携・協力を得て、健康・安全教育の指導に努めているか | 警察・医療機関等の外部講師による講話（交通安全講話・薬物乱用防止教室等）を通じて、生徒の意識の高揚を図ることができた。 | B | B | |